

Q&A

胃に多発する隆起性病変とリンパ節腫大を認めた1例

【問 題】

症例：68歳，男性。

主訴：なし。

現病歴：高血圧，心房細動にて近医通院中，検診目的の上部消化管内視鏡検査にて胃に多発する隆起性病変を認め，精査加療目的に当科紹介となった。

内服：ピロプロロールフマル酸塩錠 2.5mg 1T分1，アピキサバン 2.5mg 2T分2，エソメプラゾール 20mg 1T分1。

血液検査所見：WBC 7100/ μ l，RBC 424万/ μ l，Hb 13.3g/dl，Ht 38.4%，MCV 90.6fl，MCH 31.4pg，MCHC 33.4g/dl，PLT 15.1万/ μ l，CRP 0.11mg/dl，Alb 4.0g/dl，CEA 1.5ng/ml，CA19-9 10U/ml，ヘリコバクターピロリ抗体<3U/ml，ガストリン>3000pg/ml。

上部消化管内視鏡検査画像 (Figure 1)，腹部CT検査 (Figure 2) を示す。

診断は何か？

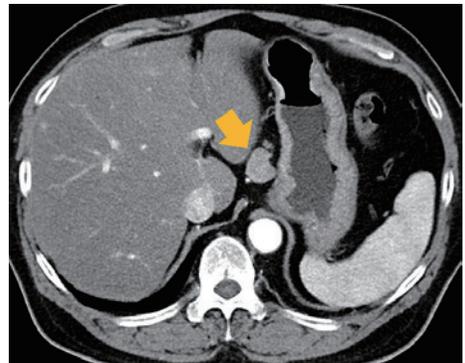


Figure 2. 腹部造影CT画像：長径15mmの胃小彎側リンパ節腫大を認めた。

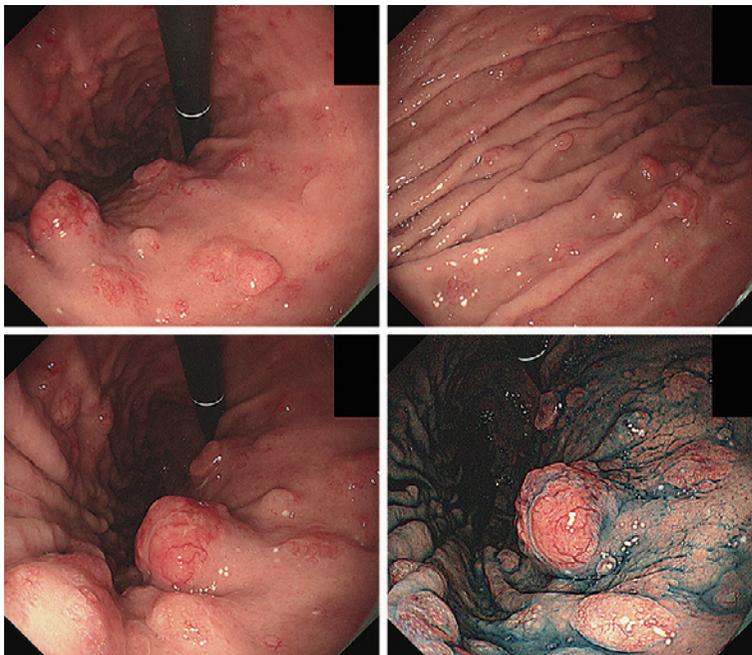


Figure 1. 上部消化管内視鏡検査画像：体部に多発する胃腫瘍性病変を認めた。